TOKYO GREEN FARM

東京で始まっている 季節を呼ぶ 緑との共生

里山回帰、都会のミツバチ、屋上菜園など自然を取り戻すアクションが高まっている東京。アスファルトジャングルが緑で覆われる日も遠くない？

1 5×緑 ゴバイミドリ

〝かご5面草木〟で狭小スペースも緑化5倍

都市緑化のために生まれた『5×緑』の植栽ユニット

昨年10月、東京・広尾にアートミュージアムとオフィスの複合ビル『ワイマッツ広尾』が誕生。地下1階と地上1階には日本画専門の美術館である『山種美術館』が入り、都内有数の文教エリアにふさわしいカルチャースポットとなっています。

1階エントランスには〝かずら垣〟と名付けられた、全長17mの金網とテイカカズラで作られた矢来。2〜6階のテラス外周にも4列の植栽が施されています。これらの緑化を手掛けたのは、エコ・ジャパン・カップ2007での受賞経験を持つ株式会社アネックスの『5×緑（ゴバイミドリ）』。〝制約の多い都市空間に緑を増やす〟ことをミッションとし、さらには緑化活動を通じて、里山の植生や環境保全への貢献を目指しているプロジェクトです。

『5×緑』という名は、独自の植栽ユニット〝緑のキューブ〟に由来。箱の上面だけでなく4つの側面にも緑を植栽できる＝緑の面積が5倍になるという、都市緑化を視野に開発された注目のマテリアルです。

a. 山種美術館の1階ロビーにあるカフェ「Cafe 椿」から眺めた駒沢通り。かずら垣の独特なフォルムと透け感が〝緑の額縁〟となって都市の風景を切り取ります b. 二等辺三角形のかごにしつらえたテイカカズラはキョウチクトウ科の蔓性常緑樹。初夏には香りのある白い花が集まって咲きます c. 駒沢通りから見た『ワイマッツ広尾』の全景。短冊のようなベージュ色の花崗岩が連続する外観は、南西からの日射による熱負荷を遮る機能も持っています

a. テラス外周に廻らした緑化ユニットには4列の植栽が施されています。外側の2列にはシラカシなどの常緑樹、3列目は常緑樹と落葉樹の混植、一番内側には花木低木と多彩な野草の混植、ユニットの側面はテイカカズラが覆います b. 2階から6階のオフィスフロア東側には広尾の街を借景するテラスが設けられています。各階にレイアウトされた緑化ユニットは繊細なストライプを描き、街ゆく人に癒しの眺めをもたらします。オフィスの中からは外光に透ける〝緑の額縁〟が楽しめます。植栽に使われているのはシラカシ、コナラ、アラカシ、タブノキなど c. テラスには手すり付きユニットを回し、フェンスを兼ねた緑化を実現。ウッドデッキも張られた心安らぐ屋外空間です

日本画の美術館を飾る 優しく懐かしい在来の緑

「日本在来の草木で都市緑化を進めている『5×緑』として、日本画専門の美術館に植栽させていただいたのは意義深いことでした」と話すのは、『5×緑』創設メンバーでシニアアカウントの宮田生美さん。

白樫（シラカシ）、小楢（コナラ）、夏櫨（ナツハゼ）、藪柑子（ヤブコウジ）など、山種美術館を飾る植物はすべて関東地方の里山を構成する在来種。50種以上ある緑は、どれも優しく懐かしい趣きで季節の巡りを伝えてくれます。造園デザインはランドスケープの第一人者・田瀬理夫氏によるもの。立体的で多彩、そして季節感があり、繊細に透けるモダンな緑が、心安らぐ都会のアートシーンを演出しています。

かずら垣と緑化ユニットは、竣工スケジュールにあわせて圃場で製作し、緑が豊かになった状態で現場に設置する〝事前養生ユニット方式〟で施工されています。狭い屋外テラスなど、造園しにくい場所でも短期間で完成度の高い緑化を実現できるのも『5×緑』のメリットです。

『5×緑』の緑化マテリアル

都市部に緑の空間を創り出す『5×緑』の植栽システム。ビルの屋上や壁面、路上のファニチャーやガードレール、個人住宅の庭やベランダまで、規模の大小を問わないフレキシブルな緑化マテリアルが魅力です。スタイリッシュだから一人暮らしのグリーンインテリアとしても大活躍。おしゃれに“マイ緑化”を楽しんでみませんか？

里山ユニット キューブタイプ

スチールかごの上面に里山の草木など、4側面にテイカカズラなど、あわせて約9〜14種を植栽。サイズオーダーもできます。20×20×H20cm・18,900円〜※30cmまで宅配OK

里山ユニット 80cm横長タイプ

日本在来の植物から草本類約8種、草本類約15種を盛り込んだ、本格的に里山の緑を楽しめるユニット。L80×D35×H40cm・45,000円〜※写真は側面リュウノヒゲタイプ

里山ユニット 水盤タイプ

里山の水辺をイメージした水盤に、在来種の草本類約15種を植栽。中央にレイアウトされたハスがポイントです。50×50×H25cm・45,000円〜※写真は側面テイカカズラタイプ

アゼターフ

『5×緑』が提携している里山の畦や林床から、植物の復元に配慮して採取した自然植生マット。L48×D34cm※適正なルールに基づいて採取しているため供給量には限りがあります

『5×緑』システムで都市のあらゆる場を緑に

さまざまな面積、形態の植栽ベースを作ることができる『5×緑』システム。積み重ねて緑の壁に仕立てたり、テラスに並べて緑のひさしを作ったり。通路やアーケードに配置すればベンチや車止めになります。「このシステムなら山手線の軌道だって里山の緑で埋められるかも知れません」と宮田さん。東京を空から眺めたら、大きな緑の輪が見える。そんな壮大な未来図も、夢で終わらせない気概に満ちているのが『5×緑』。里山の自然を想う心ひとつで街を緑に染め続けます。

『5×緑』で歌舞伎町を里山に!?

『5×緑』では“勝手に里山計画”と銘打ち、世界最大級の大消費都市・新宿を緑で埋めるプランを画策中！　緑が増えれば街も人も変わるかもしれません。

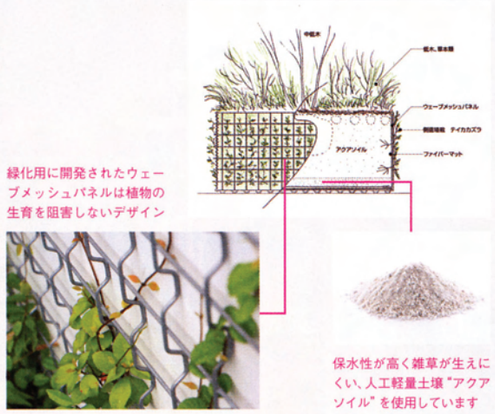
現在の新宿コマ劇場前。残念ながら植栽などのグリーンオブジェは皆無に等しい状況です

コマ劇前の広場中央や周辺に里山ユニットを配置するとこんな感じに！　周囲のテナントビルの壁や屋上にも緑があふれています

『5×緑』のデザイン

直方体の金網（フトンカゴ）に土を充填して植生ベースを作り、上面だけでなく側面にも草木を植栽。この『5×緑』の基本デザイン、およびシステムを支える思想やディテールは、多くの環境デザインを手掛けている株式会社プランタゴの田瀬理夫氏が10年にわたって開発したものです。

田瀬理夫（たせみちお）1949年東京生まれ。千葉大学卒業。1977年に㈱プランタゴ開設。1978～86年にSUM建築研究所の集合住宅プロジェクトに参加。1995年「らんの里堂ヶ島」で日本造園学会賞受賞



緑化用に開発されたウェーブメッシュパネルは植物の生育を阻害しないデザイン

保水性が高く雑草が生えにくい、人工軽量土壌“アクアソイル”を使用しています

a.「新東京郵便局の屋上緑化」植栽済みのグリーンキューブをドット方式でレイアウトした施工例。環境の厳しい金属ルーフの上でも順調に生育しています。近未来なムードが漂う不思議な緑化デザインです。第6回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールで審査委員会特別賞受賞 b.集合住宅のひさしやバルコニーに植栽済みの里山ユニットを置いただけで、緑まぶしいテラスが生まれます c.サイズオーダー可能な里山ユニットは、個人住宅の狭いベランダにも里山の庭を作ることができます。窓際にレイアウトして蔓性植物を育てれば緑のカーテンに！ d.透明なテーブルにテイカカズラなどの草本類15種を植栽したグリーンキューブを組みあわせれば、清々しい緑のテーブルに。ノシバを使ったキューブはそのままスツールとして座ることもできます e.人気のカフェも『5×緑』でおしゃれに緑化！ f.道路から玄関まで高低差のある長い通路を持った個人住宅での施工例。コンクリートで固められた地植えのできない敷地のため、緑化ユニットを配置して植栽地を作っています。高低差を生かして緑のステップを設け、立体的で表情豊かなアプローチガーデンとなりました

『5×緑』の里山ネットワーク

『5×緑』では植生の攪乱を防ぐため、関東と関西それぞれに在来植物のナーセリーネットワークを持っています。その一環で知り合った、地元の自然を守る人々とともに環境保全活動も2007年からスタート。栃木の“馬頭の森”、滋賀の“畑の棚田”と、昔ながらの里山が残る2つの土地での活動レポートは『5×緑』のブログで読むことができます。

栃木の“馬頭の森”では森の手入れをしながら植生の復元を、滋賀の“畑の棚田”では放棄田の畦道の管理を行っています

テイカカズラ

シラカシ

コナラ

ヤマブキ

ヤマツツジ

どんぐりキューブプロジェクト

“どんぐりキューブ”は里山のどんぐりから育った実生苗をキューブに植えたもの。その売り上げの一部は里山管理の活動に充てられます。常緑（シラカシ）と落葉（コナラ）の2タイプあり！

お問い合わせ／株式会社アネックス 5×緑事業部　TEL 03-3280-2041　URL http://www.5baimidori.com